

第1回「診療時間ギリギリに駆けこんできた29歳女性」(2012年1月号)

ここでは、連載誌面ではご紹介できなかった、より詳しい解説を掲載しています。臨床推論をより深く学ぶうえで役立つ情報が載っていますので、ぜひご活用ください。

① 膀胱炎診断の概論は下記を参考にしてください。

- ・ Bent S, et al : Does this woman have an acute uncomplicated urinary tract infection ? JAMA, 287 (20) : 2701-2710, 2002
または
- ・ デヴィッド・L・サイメル, 他・編, 竹本 毅・訳 : JAMA版 論理的診察の技術 ; エビデンスに基づく診断のノウハウ, 日経BP社, 2010

② 悪寒はなぜ起こる？

病原体が産生する毒素などの外因性発熱物質は、生体内でサイトカインなどの内因性発熱物質を誘導します。これらサイトカインは視床下部でシクロオキシゲナーゼを活性化し、プロスタグランジンの合成を高め、この影響で、延髄にある体温調節中枢において体温のセットポイントが急激に上昇すると考えられています。体の温度とセットポイントで設定された温度には差があるため、そこから体内では体温を上昇させる反応が始まります。アドレナリンが分泌されることで、鳥肌が起こり、体内の熱の放散を防ぐために末梢血管を収縮させ、手足は寒さを感じるようになり、悪寒を感じるようになります。同時に体温を上昇させるために、筋肉を細かく収縮させることで熱を産生し、これが震えとなって現れます。10分～1時間程度で体温は38～39℃まで上昇すると考えられています。

【参考文献】

- ・ 柳 秀高, 他・編 : 臨床感染症ブックレット1巻 病歴と身体所見から感染症を見極める, 文光堂, 2010
- ・ オーストラリア治療ガイドライン委員会・著, 医薬品・治療研究会・編訳 : 鎮痛・解熱治療ガイドライン, プリメド社, 2000

③ 膀胱炎は発熱しない？(腎盂腎炎は発熱する？)

膀胱や食道、胃などの管腔臓器では、腎臓や肺といった実質臓器の感染症に比べて発熱しないといわれています。膀胱炎も一般的に発熱しませんが、その原因を厳密に証明することは難しいようです。

【参考文献】

- ・ 岩田健太郎・編 : 感染症999の謎, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010

④ 腎臓は痛みを感じるの？

痛みを感じる侵害受容体が、腎臓を包む被膜には存在しますが、腎実質には存在しません。このため、糸球体腎炎で患者は痛みを訴えませんが、腎臓が急に腫大して被膜が伸展するような場合、伸展痛という鈍痛が生じます。腎周囲に炎症が波及するような後腹膜の炎症では、側腹部痛が生じたりします。尿路では尿路結石などで尿路が閉塞した場合に疝痛が起こり、これは結石が移動すると痛みの部位も変化します。

⑤ 腸腰筋試験, 内閉鎖筋試験

腸腰筋試験はPsoas sign, 内閉鎖筋試験はObturator signといいます。実際にどのように所見をとるのかについては、これら英語名でYoutubeなどを検索すると見ることができます。これらの試験は、後腹膜への炎症波及を確認するために用います。